

に諸子今後の勤勉に據り相當の方法を以て之に實果せんとす其方法に就ては日下の中なるは今日之を留るべし
大正十年七月廿五日

株式會社 川崎造船所

會社側は右の如き數字を示して大いに樂觀の態度を探りたるが、争議團側は於ても亦必ずしも悲觀し居らざりき。當日争議團に於ては入場者の牽制運動を行ふと共に間諜として争議團職工を故らに出勤入場せしめ工場内の状態を視察せしむる奇襲法を用ひたるが其の結果として調査し付たる實數は左の如きものなりと發表する所ありたり。

- ▲本工場造船總數五百名、内四船員二四三、不具者四二、全職工(老練工共)五六
- ▲造船部百三十五名(工部長心得團屬共)
- ▲兵庫工場工場長心得二二九、臨時雇、不具者老人共)
- ▲荏台工場五百名、内朝鮮人二百餘名、部長六十餘名、團屬員六十餘名、全職工不具者、老人共約百七十餘名
- ▲電氣工場出勤者低能者一名

右の如く會社側の聲明と争議團側の觀測とは甚だしく軒輊ありたり。荏台工場の殆んど大部分が入場せる事に關しては同工場が正式に單獨にて要求を提出し居らざりし關係より異とするに足らずとて之を容認せるが、要するに會社側の樂觀は附元氣に外ならずとて結束の固きを強調して争議團側にても盛に氣勢を擧げたり。同夜例の如く最高幹部會を開催九十餘名參集、左の決議を爲せり。

一、真切者を調査し絶交状を送る事

- 一、各部より二名宛の密偵を工場内に放ち偵察する事
 - 一、犠牲者家族慰問に努むる事
 - 一、我々は要求全部を貫徹する迄断然就業せざる事
 - 一、行商隊の取締役を設け隊員中の不正者を戒むる事
 - 一、争議團本部より駐屯軍隊へ慰問状を送る事
 - 一、工伍長の反省を促し背ざる時は記録に残す事、各部各職組合を完全にする事
- 各幹部は此鐵石の如き堅き意志を全職工に傳へる事とし、各委員は切崩し防止、結束固めに努め、軟化職工の家族を説得する事となり同夜も必死の活動を爲したり。

第二日も勞資の白熱戦は火花を散らして行はれ、扇港工業地帯の緊張振目覺しきものあり。會社側にては此日の職工出勤數が爾後の形勢を支配するものなりとなし、前日の成績思はしからざりしより前夜來躍起となりて職工狩出運動に努力し、職工争議團又負けず劣らずの活躍振を見せ、勞資兩軍の鉢合せ等隨所に行はれたり。二十六日朝には市内各署の警官殆ど全部出勤し各工場附近を始め職工通路の要所々々を警戒し峻烈なる取締を行ひて聊かたりとも妨害的行爲は絶對に許さず、容赦なく檢束拉致したれば争議團の憤激甚だしく幹部等の鎮撫も甲斐なく小衝突隨所に起り百二名の檢束者を出すに至れり。此日出勤者は案外多く會社側の發表せる數字は左の如く前日に比し遙かに増加を示せり

本工場	全員		増人	
	名	名	名	名
第一日	一三、五六六	一八九	二、八八一	九九一
第二日	一八、八八二	二、八八一	九九一	